

紅組： はんす、SAG、あいちゃん、おびおさん
白組： Dr.K、ころん、カムちゃん、すーさん
MC&ジョーカー：BJ

1. ボヘミアン・ラブソディ (クィーン：1975年)

♪はんす

エイズであることを発表した後すぐに亡くなってしまった、今は亡きフレディ・マーキュリー率いるクィーンの名曲。クィーン好きのころんでもトップ3に入るお気に入りの曲。貴公子だかナイトだかをイメージしていたというコスチュームは、冷静に見るとやや滑稽で、まるで色物バンド的ではあるけれど、日本人好みのわかりやすく美しいメロディーラインやエンターティメント性で特に日本では人気のグループで、クィーン自身も日本びいきだった。フレディが亡くなった後、クィーンとしての活動は見合わせていたようだったが、2005年は別のボーカリストを迎えて、クィーンとしての活動を再開する予定らしく、久々にクィーンとしての新曲が聴ける日も近いのかも。ただ、フレディの居ないグループをクィーンと呼んでいいものかどうか、ファンの間でも意見が分かれそう。。。他に最近ホンダ・モビリオのCMで使用された「キラークィーン」や、キムタク主演のドラマ「プライド」の主題歌「ボーン・トゥ・ラヴ・ユー」、また映画「フラッシュゴードン」の「フラッシュゴードンのテーマ」などなど、ヒット曲は数知れない。このボヘミアン・ラブソディは、ドラマティックな曲の展開、母親に語りかけ許しを請うという歌詞の繊細さ、フレディがピアノの弾き語りで歌う姿などがとても印象的な1曲

はんすくんはカナダに留学経験アリの、実は英語が話せる人なんですが・・・

(笑)しかし、ころんがもしも人より上手に英語が話せたとしても、クィーンが好きでも、この曲がとってもお気に入りでも、決してこの選択はしない・・・というか、かなり勇気の必要な曲かと(笑)。途中早口みたいなどこある

し。・・・というのを知っているの、よく耳を澄ませて聞いてると、本人プラス外野から「ココからよー。ココから(が気合いの入れどころ)！」というかけ声が(笑)。いやー、しかし37年間人間やってて、カラオケでコレを歌う日本人ってのは、はじめて見ました(笑)。でも、はんすくんが歌っても、やっぱりこの曲はいい曲だ。結果的にはウケてたし、いい選曲だったのかも。

2. サムデイ (佐野元春：1981年)

♪Dr.K

佐野元春といえばこの曲！というくらい、売れに売れた誰もが知ってるヒット曲。この曲を聴いた当時は、元春があんなに変わりもんだったとは想像もせず・・・(笑)

さわやかで、いかにも日本人がイメージするカラッとしたアメリカの風のような

佐野元春の音楽（笑）。他にも「ガラスのジェネレーション」や「アンジェリーナ」などヒット曲多数。ころんのお気に入りには「グッドバイからはじめよう」です。

Dr.Kところんは、1学年違いってこともあって、だから元春のこの曲を選択したDr.Kの気持ちはわかる気が。多感な青春時代にこの曲と出会い、きっと、”あの”Dr.Kでもいろんなことを思い悩んで涙した日があったに違いない！と想像・・・でも、その絵を想像すると、ちょっとキモい（笑）。Dr.Kはお酒をガブガブ飲むタイプでもないし、だから飲みにいったりってタイプでもないし、どっちかっていうと、みなとたむろって遊ぶよりも、一人で好きなことやってて平気なタイプ、それも熱中すればとことんで、お金も時間もつぎ込んでってタイプだからか、きっとカラオケ自体に馴染みがないのね・・・と思いました。人前でただ歌ってる自分にやや引き気味な感じが・・・（笑）それを察知したBJからの助け船が出て・・・しかしそれって助け船になっているのかどうか（笑）

3. 雨上がりの夜空に（RCサクセション：1980年）

♪SAG

すでに大御所でありつつ未だにロックンローラーとしてがんばり続けているRCサクセションの昔の名曲。っていうか、よく聞くとかなりエロ。でも男の子にはその比喩的エロな曲ってウケがいいみたいで、この手法な曲って、例えばシーナ＆ロケッツの「レモンティー」だったりもそうだし、多いですね。「トランジスタ・ラジオ」「スローバラード」などいい曲はいっぱい。またボーカルの忌野清志郎が坂本龍一と組んで発売した「い・け・な・いルージュマジック」もウケました。「あこがれの北朝鮮」や「自転車ショー歌」（茄子アンダルシアの夏の主題歌）も清志郎です。

という曲を選択したSAGさん。彼の青春まっただなかな時のヒット曲だし、また、このSAGさんって方はRCとか大好きな人だから、もぉーノリノリっす

（笑）。リスナーさんには、いつもの「ハッキンロール」からは想像の出来ない歌声かもしれませんね。ちなみにころんはこれまで何度もSAGさんのRCは聞かされてますので、これくらいじゃぁ驚きません（笑）。そろそろ新ネタを期待したいところですが、好みの音楽がハードロックやめんたいロックな人だから、イマドキの曲にはなかなか・・・って感じなのかな？ま、古くてもいいんで、ころん的にはモッズなんかを新しいレパートリーにリクエストしたいところですが、SAGさんとはちょっと違うかな？

4. 友達よ（太陽族：2004年）

♪ころん

ぴっかぴかの新曲です。2004年11月に発売されたアルバム「チョコレートナイトパーティー」に収録されている1曲で、おそらく12月になってからカラオケに入った曲です。ころんがネットで事前にチェックしたとき・・・この紅白

を収録する2日前に調べたときには、まだスターデジオ(?)には入ってませんでした(笑)。なもんで、アルバムタイトル曲「チョコレートナイトパーティー」を歌うつもりで紅白に行ったら、なんと新曲でこっちが入っていて、くりらじ的にはこの曲の方がマッチするかと急遽選曲を変更したのでした。ほら、だって、くりらじって集団の出会いもこれまたなんか偶然というか不思議で、でも友達・・・というか、へんな絆・・・なんていうと、かなり臭いけど(笑)、でもまあ微妙な信頼関係で結びついているというか・・・取りあえず、感謝の気持ちを込めての選曲・・・ということで(笑)。そんなわけで、歌ってる途中はスタッフ全員と握手してまわり、ほとんどディナーショー状態(笑)。

この太陽族、ほとんどが北海道出身なんですけど、ドラムは山口県出身です。ちなみに太陽族の名誉にかけて言いますが、ほんとはこんな風に叫ぶ歌ではない、名曲です(笑)。

5. 君ノ瞳ニ恋シテル(椎名林檎:2000年)

♪あいちゃん

ボーイズ・タウン・ギャングのカバーです。椎名林檎・・・ころん的には語れるものが何もない・・・(笑)

シングル「罪と罰」のカップリング曲とのことなんですけど、この曲、邦楽・洋楽問わず、いろんな方にカバーされているようで、やっぱり名曲は永遠ってことなんでしょうね。

ジェネレーションギャップ感じますねー。いや、選曲もそうですが、聞いててやっぱりカラオケ慣れしてる世代なんだなーと。あいちゃんって、遊び人には思えないし・・・というか、逆におそろしく勉強してる女の子って感じがしてたんですが、そんなあいちゃんでもカラオケに慣れてるのねって思ってしまうってことは、あいちゃん世代の他の子たちって、カラオケで歌わせれば、セミプロ並みなのかも。おそろしやー(笑)。しかし、あいちゃんの英語は英語わかんないころんにも、はんすくん以上に英語っぽく聞こえたんですが、それはなぜ?(笑)

いやー、しかしかわいいね♪こんなかわいくカラオケ歌えれば、カラオケボックスで恋も芽生えておかしくないなところんは思った。んー・・・練習あるのみかぁ?つーか、やっぱり日頃から歌える曲・・・女性アーティストの曲なんかを聴くべきなんだ。きっとそこころんとは違うのか・・・んー・・・でもころんは女の子の歌声聞いても萌えないんだなあ・・・(笑)

しかし、この系の歌って、得点的にはなぜかほどほどにしかいかないんだよね。聞いているぶんには、とっても美味かった・・・もとい、上手かったんだけど・・・実際後に他のスタッフから「あいちゃんは上手いねー」との声があがっていたし。

そうそう、曲の間に聞こえる「ひゅーーーー!!」ってのは、カラオケのバックコーラスではなく、盛り上がってるその他スタッフの声です(笑)。

6. 涙そうそう（夏川りみ：2001年）

♪カムちゃん

いろんな方がこの歌を愛して歌っているので、正直カムちゃんが歌ったのが誰バージョンなんだかわかんないんですけど・・・（笑）

いやあ、まさかカムちゃんがこういう曲でくるとは・・・。絶対にブルーハーツかハイロウズかだと思っていたので、びっくりしました。しかし、この歌はいい歌ですよ。ころんはあまりヒット曲を追いかけてたりしないタイプで、最近の曲ってほぼラジオやテレビから勝手に流れてくるのをなんとなく聞いているだけなんです。でもこの曲はしっとりとあたたかい曲だと思います。だからまだ20代のころからカムちゃんを知ってるものとしては、「いやー、大人なオトコになったのねえ・・・」みたいな、妙な感慨もあったり・・・（笑）他の方達が比較的ノリのいいものを選曲した中での、唯一しっとり系でした。

7. マツケンサンバ2（松平健：2004年）

♪おびおさん

今年一番の色物ヒットといえば、やっぱりこの「マツケンサンバ2」でしょう（笑）。元々は松平健が舞台上で歌っていた曲ってことなのですが、よくもまあこんなことやってたもんだと驚いてしまいました。しかし、大勢の腰元ダンサーズを率いて歌う、あの豪華絢爛さには、向かうところ敵なしというか、歌の善し悪しや上手い下手以前に圧倒されるもんがあり、半ば脳が麻痺状態になる感じがするのは、ころんだけでしょうか？（笑）

くりらじ紅白収録の数日前にテレビでたまたまFNS歌謡祭を見て、そこではじめてマツケンサンバを見て、なぜか「これしかないよなー」と思っておびおさんに連絡したのはころんです（笑）。しかし、おびおさんのここからがスゴい！期待されちゃあかなわんなーと思ったのか、それともコレがやれるのは自分しかいないと悟ったのか、そこはわからないけれど、DVDの発売日をチェックして、購入、自宅でダンスのレッスンまでしたとか。なもんで、紅白でも華麗なステップを披露・・・といっても、部屋が狭かったんで存分に踊ることが出来なかったようで、ちょっとかわいそうでした。BJが「なんかカクカク踊ってますう～」と途中で言ってますが、おびおさん曰く「サンバにもともと馴染みがないので、サンバのステップのコツがわからなくて」とのこと。なるほど。そうすると純和風にしてサンバも踊れる松平健って偉大かも（笑）。この曲はやっぱりビデオを回すべきでした。ちなみに大盛り上がりで、途中からはBJ、Dr.K、ころんの3人が立ち上がって並んで、おびおさんに習って即席腰元ダンサーズもどきをやりました（笑）。

8. Cartoon Heros（カートゥーンヒーローズ）（Aqua（アクア）：2000年）

♪すーさん

北欧系のダンスユニットなんですって＞アクア 確かに聞くと北欧くさい感じは

しますが、なんでこんなのすーさんが知ってるの？って感じ（笑）なんだけど、松嶋菜々子の出演する"生茶"のCMソングになっていたそうで、言われて納得。確かに聞いたことありました。

この曲、どこからが歌い出しなのかもわからなくて、で、歌ってるすーさんの顔をじっと見つめ応援していたんですが、確かにすーさんは口を開けたり閉じたりで、歌っている様子なのに、声が出てない・・・あれ？マイクのスイッチ切れてるの？なんて思っていたら、聞き流していたコーラスと思っていた声が、実はすーさんの歌声だった・・・というのに気が付くのに、少々時間がかかってしまいました。っていうくらい、まったく「一人安田大サーカス状態」でビックリ。腰ぬけるかと思いました。後に「いや、これっていつも2人で歌ってるから、1人で歌えるかどうか心配してたんです」って言ってましたけど、飲み屋に行っ、いつもこんな調子で2人で歌ってるの？って、その方が疑問なんです
が・・・？ねえ（笑）

○よくある名字「斉藤」（ダンス★マン：1998年）――紅組用

特にコメントすることってないんですが・・・（笑）元ウタは「PLAY THAT FUNKY MUSIC」って曲らしいです。ダンス★マンがデビュー当時から歌ってた、初期の頃の歌のようです。ダンス★マンっちゅーと、他にも「寝たのね」とか「ワンBOXのオーナー」とか、いろいろありますが、聞いててちっともファンキーな感じがしないような・・・
・・・・・・以上っ！（笑）

○あなたに（モンゴル800：2001年）――白組用

沖縄出身のバンド。歌詞が印象的な「あなたに」。この曲の入ったアルバム「メッセージ」は、インディーズであるにも関わらずミリオン突破となったアルバム。同世代にも、BJのようなおじさんにも（笑）幅広く支持されていたりするようです。が、BJが歌うと、どうも・・・ねえ・・・（涙）って、どう白組の助けになったんだ？この歌が・・・（涙）

9. 雪の降る街（ユニコーン：1992年）

♪はんす

ユニコーンっていえば、奥田民生ちゃんのいたグループ。1993年に解散しちゃいました。

まず「あー、ダブらなくてよかったー！」と思いました（笑）。ほら、この紅白の収録をしたのがちょうどクリスマス前だったってこともあって、この曲もろんの中で候補にあがっていたんです。ユニコーンの名曲ですもんね。この時期「あなたの好きなクリスマスソングは？」って街頭インタビューしたら、必ずこの曲はランクインしてますし。なんでしょ。このまったりとした切なさ。激しく

盛り上がる曲でもないし、ひどく悲しいわけでもないし、でもまったりとだらーっと切ない感じ（笑）。いや、はんすくんがユニコーン好きだって知っていたので、もしかしたらダブるかも・・・と思って、候補からハズしたんですが、やっぱりきたか・・・と正直思いました。

1曲目のクイーンのときは、かなりウケた感じだったんですが、この曲ははんすくん自身好きな曲を気持ちよさそうに歌えてたようで、何よりでした。てか、普通カラオケってそういうもんだろーって気も（笑）。みな収録してるって意識があったからか、それともフツーじゃない人ばっかなのか、いやいや、紅白前に出席した、はやしばの結婚披露パーティーで疲労していたからなのか？やたら笑わせすぎだっちゃんに。

10. 17歳の地図（尾崎豊：1983年）

♪Dr.K

尾崎について、今更語ることもないでしょう？（笑）とはいうものの、リアルタイムであったにもかかわらず、当時は一切聞いたことがなかったんですよ＞尾崎
なんか食わず嫌いというか、特にわけなくキライでした（笑）。ちなみにこの曲は尾崎のデビューアルバム「17歳の地図」の1曲。このアルバムには「15の夜」なんかも収録されているとか。しかし、17歳とか15歳とかって、Dr.Kにとって、もう20年も前の事じゃん（笑）

が、男の子にとっては尾崎って特別な意味を持つんでしょうね。教祖か？まあそのあたりは、ころんにはさっぱりわかりません（笑）。

で、この曲、やっぱりBJが出しゃばって、コーラスし始め、最終的には乗っ取って歌ってます。＞そんなに好きか？尾崎が（笑）。「尾崎はハートで歌うんだ！」と叫んでますが・・・ふーん（笑）。

11. ああ人生に涙あり

♪SAG

狙ったでしょー？って選曲で（笑）。そうそう、こういう単純な曲って確かに高得点出やすいんですよ。だから、得点とウケ、両方狙った選曲にまず間違いはない！ってことで（笑）。ころん的にはせっかくこの選曲なら、もう少し演出があってもよかったんじゃないかと。そうすると選曲のインパクト以上にもっとウケを持続出来ただろうに・・・とややもったいない感じが（笑）。やっぱりらし最年長的には、そう簡単にキレルのは難しいのか？・・・今後の課題ですね（笑）

12. 流星（吉田拓郎：1975年）

♪ころん

「意外なところですね」と言われてますが、いや、ほんとに拓郎にはまったく興味ないんですが、でもこの曲とか「夏休み」とかはいい曲だなーと常々思ってます。曲中でなんたらかんたら言い訳してますが（汗）、真心ブラザーズがこの

曲をカバーしてて、そっちを好きで聞いてたんですよね。しかしやっぱりキーが低い・・・（と、まだ言い訳してる）でも、このメンバーで拓郎を歌う人はまずいないだろうし、比較的高齢なリスナーさん向きな曲も入れとかないと・・・という選曲でした。

しかし、本当は今年にふさわしい曲ということで、ソウルフラワーユニオンの「満月の夕」を歌いたかったんですよ。コレ、阪神淡路大震災の時にソウルフラワーユニオンが歌い、のちにその阪神で育った当時子供だった子たちが大人になって、ガガガSPというバンドを作ってこの曲をカバーして歌ったという曲で、災害続きだった2004年にはとても意味のある曲だったんですが・・・しかしシダックスにはこの曲がなかった。。。結構事前準備していたのになぁ（笑）。

13. 黒毛和牛上塩タン焼680円（大塚愛：2004年）

♪あいちゃん

今の「学園祭の女王」なんですか？>大塚愛 確かに2004年は売れに売れていたようで、1日1回は「さくらんぼ」だったりを耳にしていたように思いますが、この妙に長くて怪しげで美味しそうなタイトル「黒毛和牛上塩タン焼680円」は、アニメ「ブラックジャック」の主題歌になっていて、アルバム「LOVE JAM」に収録されている曲らしく、シングルカットは2005年になってからのよう。

aikoなんかと近いのかな？キャッチーで、等身大の女の子の気持ちをせつせつと、でも明るく前向きに語る歌詞がウケてるんでしょうか。

どうするよー！こんなに切なく「大好き～よ～♪」なんて歌われたら？それも目の前で。おまけに歌詞がエロい（笑）。そりゃぁあーた、オンナのころんでさえクラクラしましたよ（笑）。しかしよくよく考えてみれば、この歌、きっとどんなさま・・・カムちゃんにのみに捧げられている歌なのよね・・・と思うと・・・うー悔しい（笑）。いーなぁ。あいちゃん。抱きしめたいっ♪（これこれ

14. はたらくくるま1（子門真人？）

♪カムちゃん

これは童謡になるの？確か子供番組でよく聞きました。後で調べてわかったんですが、「はたらくくるま」は「はたらくくるま1」とか「はたらくくるま2」とか「はたらくくるま3」とかっていう3部作になっているらしく、今回カムちゃんが歌っているのは、その歌詞から「はたらくくるま1」だということがわかりました（笑）。

これも高得点の出やすい選曲なはずだったんですが・・・？（笑）カムちゃん本人に「みんなも声だしてくださいね」とか言われ、途中の車のなまえはスタッフみんなで大声はりあげてるんですが・・・その車の名前がどんどん長く難しくなってきた、焦りましたよー（笑）。でも、盛り上がるにはいい曲です。ただ、コレってN子供番組でかかっていた曲ですよ？なんで子供のいないカムちゃん

が知ってたんだろー？やっぱり彼の過去には謎が多い・・・（笑）

15. 春～SPRING～（ヒステリック・ブルー：1999年）

♪おびおさん

ヒステリック・ブルーって・・・あんまり印象がないんですよね（笑）。またオンナ一人オトコ2人の3人組か・・・とか、そういえば捕まった人がいたっけ・・・とか、そんな程度で。この「春～SPRING～」って曲は「目撃！ドキュン」のエンディングテーマだったようです。調べてみると、どのシングル曲もなにかとどっかの番組のテーマ曲になっているみたい。だからタイトルを見て思い出せなくても、聞けば「あ～、アレか」と思い出せるんでしょうね。

しかし、おびおさんって、どうしてこんなにも予測の出来ない人なんだろう？

（笑）いや、きっとおびおさん自身はソレを狙っているわけではないんだろうけど・・・。こういう系の、それも女性ボーカルの歌がくることはまったく予想出来ませんでした。いやーいつも驚かせてくれる人だ・・・というか、計り知れない・・・（笑）

16. ネオユニヴァース（ラルク・アン・シエル：2000年）

♪すーさん

メジャーデビューするとき、「こいつはほんとにベッピンさんだなあ」と思っていました（笑）。デビュー後売れかけた矢先のメンバーの起こした事件。どうなるんだろう？このバンド・・・と思っていたけれど、くじけずがんばって、今のラルクに至ってます。活動休止期間があって、2004年に活動再開となったようだけど、この「ネオユニヴァース」が活動休止前のシングルのようです。ちなみにころん的には割と初期めの「ウィンターフォール」なんかが好きかも（笑）。未だにわからない・・・前回のくりらじ紅白でもすーさんはラルクを歌っていたけれど、どう考えてもすーさんとラルクの接点が見つからないと思うのはころんだけでしょうか？（笑）しかし、すーさんって、無鉄砲にもほどがあると思います。普通の人なら好きな曲、歌えそうなキーの曲を選ぶのでは？と思うんですが、しかしすーさんはあえて歌えそうにない曲を選んでいるとしか思えない

（笑）。わざとなのか？それともそういう考えがまったくないのか？といっても、今回のこのラルクの曲は、前回ほど声がひっくりかえらなかったんで、やや淋しかった（笑）。しかしさすがくりらじの最終兵器の一人。このキレ具合はただ者ではない気配。。。ただ、すーさんがこういう曲を熱唱するたびに血管がプツンプツンと切れていく様子を想像し、倒れやしまいか？と心配になってしまうころんでした（笑）。

さらにいうと、すーさんはラルクが歌うこの曲、本当は聞いたことがないらしいです（おい）。

○ヨコハマ・ホンキー・トンク・ブルース（松田優作：1980年）――紅組用

「ヨコハマBJブルース」でも使われたこの曲。実は作詞は俳優の藤竜也だったりするらしいです。で、優作以前に藤竜也自身が歌っているバージョンもあるとか。さらに言えば、宇崎竜童や原田芳雄バージョンもあるらしいっす。ブルース・・・って、こういう感じだったっけ？と思わせるような歌声で（笑）。もぉ、なんも言うことはありません。はい。ただ、ブルースってこんなだったっけ？という疑問だけが残る歌でした（笑）。

○イエス・イエス・イエス（オフコース：1982年）——白組用

オフコース全盛期、もうはじけまくっていた頃の作品。でもって、結構私たち、そのど真ん中世代ではありますが、オフコースならもっともっと他にも売れた曲やいい曲があったはずなのに、どうしてこの「ふーふーふ〜」な曲を選曲したのか・・・？（笑）これって得点的に劣勢な白組のジャマしてるだけじゃん！という・・・そもそもガタイのデカイBJに「ふーふー」言われてもねえ・・・

（笑）ということで、曲のはじめにころんは「なんでこの曲なんだー？これってふーふー言うヤツじゃんかー！」と猛烈に抗議したんですけど聞き入れてもらわれず・・・。だってふーふーだよぉ・・・（涙）

あ、コーラスははんすくん・・・かな？

ちなみにころんはオフコースだったら・・・いろいろ好きな曲はあるけど、「ワインの匂い」がいいかなあ・・・。

17. エースをねらえ

♪紅組オールスターズ

ちょこっとずつ順番に歌いましょう作戦できた、優勢な紅組オールスターズ。時々きゃしゃな裏声が混ざっているのは誰だ？（笑）「なんかすごいことになってる！」と途中であいちゃんが言っていたけど、本当の地獄はきっと次のラストの曲かと（笑）

18. マジンガーZ

♪白組オールスターズ

・・・うた？いえ、叫び声のみです（笑）もう、やけです。どーでもいいんです。あとはどれだけ受けるかのみです。はい。ちなみにこれ、エキサイトしすぎて、ソファの上で立ち上がって歌ってます。すみません。お行儀が悪くて。聞こえるのはほほころんとDr.Kの声です。そう、このラストの曲になって、やっとDr.Kがカラオケってこんな風にキレれば盛り上がるものなのね・・・ということを理解したようで、まあそれが何よりではあったんですが、同じチームのカムちゃんすーさんには、すっかり引かれてしまいましたとさ（笑）